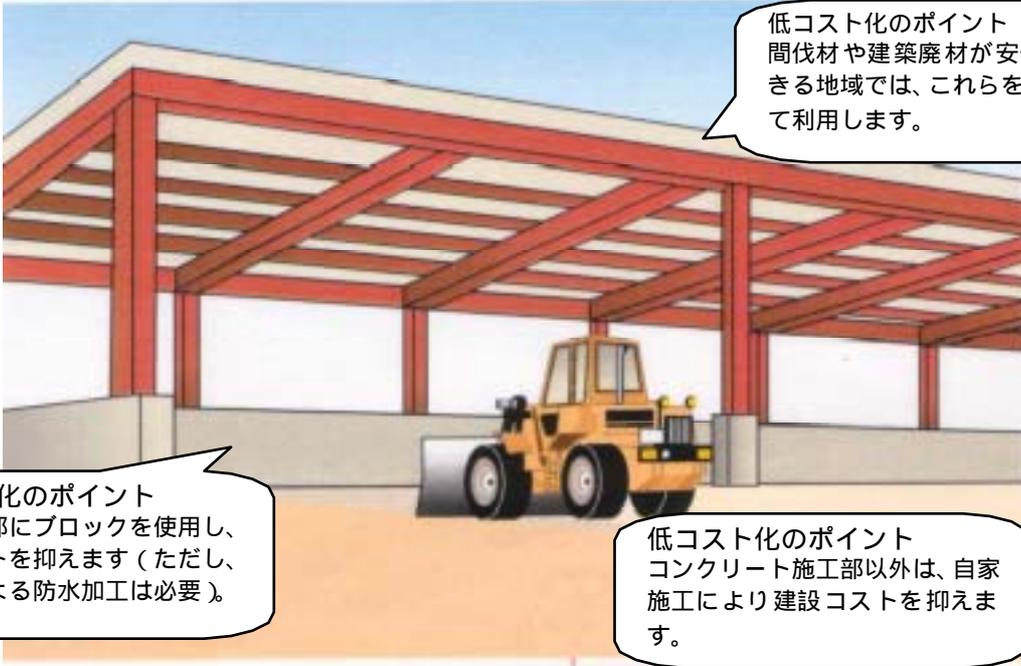


3 目的、規模に応じて施設を選びましょう。

木材等を利用した堆肥舎

構造

- ・ 従来から堆肥製造に利用されてきた堆肥舎で、奥行き10m程度で横に長い堆肥舎です。
- ・ 切り返し作業が容易な構造になっています。
- ・ ショベルローダー等の切り返し用の機械が必要になります。



低コスト化のポイント
間伐材や建築廃材が安価で入手できる地域では、これらを屋根材として利用します。

低コスト化のポイント
擁壁の一部にブロックを使用し、建設コストを抑えます（ただし、塗料等による防水加工は必要）。

低コスト化のポイント
コンクリート施工部以外は、自家施工により建設コストを抑えます。

メリット

- ・ 作業性を考えたオーソドックスな堆肥舎です。
- ・ 維持管理費は安価です。
- ・ 搬入・搬出、切り返し作業が容易です。
- ・ 施設は丈夫で耐用年数も長く、一度投資すれば以後ほとんど経費はかかりません。
- ・ 堆肥を高く積めるので施設面積は小さくて済みます。

留意点

- ・ 施設周辺に対する臭気に留意し、防臭対策として施設の周りに樹木を植えるのもよいでしょう。
- ・ 床面はコンクリート等、地下浸透しない構造としオガコ等を用い、はい汁が堆肥舎外に流出ないようにします。

デメリット

- ・ 建設費が高額となります。

設置コスト

建設費	約22,000～ 30,000円/m ² (耐用年数 木造:17年)
処理ふん尿1m ³ 当たり建設費	14,150円/m ³ (25,000円/m ² で試算)
減価償却額	1,470円/m ² ・年
堆肥舎	1,470円/m ² ・年

県内建設事例から、一般的な価格を掲載してあります。使用部材等により建設費は変わります。

堆肥舎必要面積

畜種	飼養頭数	必要面積(m ²)
乳用牛	搾乳牛20頭、育成牛4頭	185
	搾乳牛30頭、育成牛6頭	281
肉用牛	肥育牛40頭、	104
	肥育牛80頭、	207
豚	肥育豚1,000頭	303
	肥育豚1,500頭	450

必要面積は、堆積高2mとし堆肥化に要する日数(134日)で試算しました。なお、家畜飼養方法、ふん尿処理方法により面積は変わります。また、134日を越えて保管する場合は、別途保管施設が必要になります。